

臨床腫瘍学部門

Department of Surgical Oncology

旧温研外科は、生体防御医学研究所への改組に伴い、臨床腫瘍学部門となった。

各種悪性腫瘍の治療は、これまでに当部門の診療と研究の主目標であったことから、改組後も従来の研究課題を継続し、発展させて来た。以下に改組後の概況を報告する。

昭和57年4月より同61年3月までの人事移動は次のようである。

昭和57年6月に内田一郎、58年6月高椋清、59年6月に狩峰信也と南原繁がそれぞれ入局した。

昭和59年1月宮崎総一郎が別府中央病院へ、同年4月竹内義彦と和田哲哉が山香町立病院へ、60年3月木場文男が太分県立病院へ、それぞれ赴任した。なお和田哲哉はその後高椋清と交代し、さらに61年1月からは狩峰信也が高椋と交代して現在に至っている。

昭和59年4月より福岡大学第二外科の魚返英寛と奥研二が、60年4月より同増田雄一と九大第二外科守口直が、それぞれ1年間の臨床研修を行った。

昭和58年7月より59年4月まで麻生幸は文部省在外研究員としてドイツ、デンマーク、米国に出張した。

A. 侵襲時生体反応の研究

外科的治療は悪性腫瘍治療の主役を演じているが、それ自体が生体傷害性をもつ外科手術の安全性を向上することは重要な課題であるので、これについて次の研究を行った。

A. a. 手術侵襲反応の発生機序（白坂千秋，内田一郎，辻 秀男）

内分泌代謝反応を指標として手術時生体反応の発生メカニズムを検討した。その結果、手術部位からの求心性神経刺激を遮断すると体蛋白崩壊をはじめとする術後異化反応は明らかに軽減され、これは主として交感神経機能抑制によるものであることを明らかにした。この成績は、脊麻などの神経ブロックにより手術の侵襲性が抑制されることを示すものである。

A. b. 行動体力と防衛体力との関係（竹内義彦，麻生 幸，辻 秀男）

ラットの Noble-Collip ドラム外傷耐性が運動トレーニングにより増大することを明らかにした。これは有酸素的運動能力と、外科的侵襲に対する生体防衛能力との交叉性を示す。そこで臨床症例について運動トレーニングを行い、これが殊に高齢患者の手術前処置としての意義が大きいことを示した。

B. 腫瘍外科に関する研究

B. a. 癌患者の外科治療における免疫学的諸問題に関する研究（高橋 清，南原 繁，秋吉 毅）

手術侵襲による細胞性免疫能抑制機序について検討し，IL-2 産生能抑制が重要な役割を演じていることを明らかにした。つぎに，癌所属リンパ節細胞の免疫能とくに各種キラー活性を測定し，これが末梢血リンパ球のそれより明らかに低いことを認めた。また，脾細胞のキラー活性については，とくに activated killer 活性が末梢血より有意に高いことを明らかにした。これらは癌手術におけるリンパ節郭清や摘脾の意義にも大きな示唆を与えるものである。

B. b. 癌免疫化学療法に関する検討（有永信哉，秋吉 毅）

癌化学療法剤が条件によっては免疫能を増強する事実を明らかにし，これを応用した免疫化学併用療法を検討した。最近，アドリマイシンが，患者リンパ球のキラー細胞産生能を増強させることを見出し，その機序を解析するとともに，本剤投与後免疫能が増強した時期に能動免疫療法を行う方法を開発した。現在まで約100例の各種癌患者にこの療法を試み，ある程度の効果を認めている。

B. c. 癌化学療法に関する検討（安部良二，和田哲哉，秋吉 毅，辻 秀男）

当所細胞学部門（馬場教授）で開発された2経路方式化学療法を臨床的に応用するための基礎的検討を行い，投与条件を確立するとともに，これを肝癌および癌性腹膜炎患者に試み，有効性を認めている。さらに化学療法剤に対する感受性テストとして colonogenic assay を検討してきたが，さらに ^3H -thymidine とり込みを指標とする Scintillation assay の検討をすすめ，Millipore filter を用いることによる迅速かつ簡便な方法を考案し，現在その有用性を検討中である。

原 著

1. 宮崎総一郎，秋吉 毅，川口満宏，木場文男，辻 秀男，1982.
癌患者における術前後の特異的細胞性免疫能の変動.
外科，44：621-623.
2. Nakamura, Y., M. Kodama and T. Kodama : 1982.
The effect of ovariectomy on excretion of urinary steroids and tumor growth in rats bearing 7, 12-Dimethylbenz (a) anthracene-induced mammary cancer Gann 73 : 234-238.
3. Tsuji, H. and C. Shirasaka : 1982.
Inhibition of adrenergic response to upper abdominal surgery with prolonged epidural blockade Jpn. J. Surg. 12 : 344-348.
4. Akiyoshi, T., F. Koba, M. Kawaguchi, S. Miyazaki and H. Tsuji : 1982.

Indirect macrophage migration inhibition response to 3M KCl extract of gastric carcinoma
JNCI 69 : 345-347.

5. 麻生 幸, 辻 秀男, 1982.
ラットの出血性ショック耐性に及ぼす加齢と運動トレーニングの影響.
体力科学, 31 : 251-257.
6. 竹内義彦, 白坂千秋, 阿南敏郎, 辻 秀男, 1982. 高齢者胃癌の特徴と予後.
消化器外科, 5 : 2057-2061.
7. Miyazaki, S. T. Akiyoshi, M. Kawaguchi, F. Koba, S. Arinaga, T. Wada and H. Tsuji : 1982.
Effect of operation on cell-mediated immune response to autologous tumor extract in cancer patients
J. Surg. Oncol. 21 : 233-237.
8. 白坂千秋, 麻生 幸, 竹内義彦, 辻 秀男, 1982.
持続性硬膜外麻酔の上腹部手術時内分泌・代謝反応に及ぼす影響.
外科と代謝, 栄養, 16 : 560-568.
9. Tsuji, H. , T. Asoh, Y. Takeuchi and C. Shirasaka : 1983.
Attenuation of adrenocortical response to upper abdominal surgery with epidural blockade
Br. J. Surg. 70 : 122-124.
10. Asoh, T. , H. Tsuji, C. Shirasaka and Y. Takeuchi : 1983.
Effect of epidural analgesia on metabolic response to major upper abdominal surgery
Acta Anesthesiol. Scand. 27 : 233-237.
11. Miyazaki, S. , T. Akiyoshi, S. Arinaga, F. Koba and H. Tsuji : 1983.
Depression of the generation of cell-mediated cytotoxicity after surgery.
Jpn. J. Surg. 13 : 191-195.
12. 秋吉 毅, 木場文男, 宮崎総一郎, 有永信哉, 和田哲哉, 辻 秀男, 1983.
自家腫瘍組織抽出抗原に対する MIF 産生における suppressor 細胞.
医学と生物学, 106 : 377-380.
13. 秋吉 毅, 木場文男, 宮崎総一郎, 有永信哉, 和田哲哉, 辻 秀男, 1983.
TCGF 培養胃癌患者リンパ球の自家腫瘍組織抽出抗原に対する反応性.
医学と生物学, 106 : 381-384.
14. 木場文男, 辻 秀男, 安部良二, 麻生 幸, 宮崎総一郎, 白坂千秋, 竹内義彦, 有永信哉, 和田哲哉, 内田一郎, 秋吉 毅, 馬場恒男, 1983.
肝癌(原発性および転移性)に対する2経路注入方式動注化学療法の試み.
癌と化学療法, 10 : 1684-1690.
15. 宮崎総一郎, 1983.
癌患者における術前術後の細胞性免疫能の変動に関する研究.
福岡医学雑誌, 74 : 616-629.
16. Tsuji, H. , C. Shirasaka, T. Asoh and Y. Takeuchi : 1983.

- Influences of splanchnic nerve blockade on endocrinemetabolic response to upper abdominal surgery
Br. J. Surg. 70 : 437-439.
17. 秋吉 毅, 木場文男, 宮崎総一郎, 有永信哉, 辻 秀男, 1983.
胃癌患者脾細胞の killer 活性.
日本外科学会雑誌, 84 : 957-960.
 18. Miyazaki, S. , T. Akiyoshi, S. Arinaga, F. koba, T. Wada and H. Tsuji : 1983.
Depression of the generation of cell-mediated cytotoxicity by suppressor cells after surgery
Clin. Exp. Immunol. 54 : 573-579.
 19. Asoh, T. , H. Tsuji, C. Shirasaka and Y. Takeuchi : 1983.
Effect of beta-receptor blockade on the development of resistance to trauma in rats
Circulatory Shock 11 : 195-199.
 20. 麻生 幸, 辻 秀男, 菊地哲茂, 1984.
肝硬変症に及ぼす運動の影響.
日本温泉気候物理医学会誌, 47 : 92-98.
 21. 麻生 幸, 辻 秀男, 白坂千秋, 竹内義彦, 内田一郎, 1984.
胃切除後の内分泌代謝反応の誘発因子に関する研究.
外科と代謝, 栄養, 18 : 26-31.
 22. Akiyoshi, T. , M. Kawaguchi, S. Arinaga, S. Miyazaki, F. Koba, T. Wada and H. Tsuji : 1984.
Combination chemoimmunotherapy for advanced gastric carcinoma
Jpn. J. Surg. 14 : 185-190.
 23. Wada, T. , T. Akiyoshi, Y. Nakamura and H. Tsuji : 1984.
Colony growth of cells from primary breast carcinoma in soft agar culture
Jpn. J. Surg. 14 : 212-216.
 24. 木場文男, 秋吉 毅, 宮崎総一郎, 有永信哉, 和田哲哉, 辻 秀男, 1984.
胃癌所属リンパ節の細胞性免疫能に関する検討.
リンパ学, 7 : 233-237.
 25. Akiyoshi, T. , M. Kawaguchi, S. Arinaga, S. Miyazaki, F. Koba, T. Wada and H. Tsuji : 1984.
A trial of adjuvant combination chemoimmunotherapy for stage III carcinoma of stomach
J. Surg. Oncol. 26 : 86-90.
 26. Akiyoshi, T. , F. Koba, S. Arinaga, T. Wada and H. Tsuji : 1984.
Immunodepression after surgery : Impaired production of interleukin 2
Jpn. J. Surg. 14 : 384-386.
 27. Akiyoshi, T. , F. Koba, S. Arinaga, S. Miyazaki, T. Wada and H. Tsuji : 1985.
Impaired production of interleukin 2 after surgery
Clin. Exp. Immunol. 59 : 45-49.
 28. 木場文男, 1985.

胃癌所属リンパ節の細胞性免疫能に関する研究.

福岡医学雑誌, 76 : 104-116.

29. 辻 秀男, 麻生 宰, 白坂千秋, 竹内義彦, 内田一郎, 1985.

寒の地獄冷浴による生体変化—健康増進法としての意義.

大分県温泉調査研究会報告, 36 : 1-6.

30. Arinaga, S., T. Akiyoshi and H. Tsuji : 1985.

Augmantation of the cell-mediated cytotoxic response induced in mixed cell culture by adriamycin

Jpn. J. Cancer Res. (Gann) . 76 : 414-419.

31. Akiyoshi, T., F. Koba, S. Arinaga, T. Wada and H. Tsuji : 1985.

In vitro effect of interleukin 2 on depression of cell-medaited immune response after surgery

Jpn. J. Surg. 15 : 375-378.

32. Shirasaka, C., H. Tsuji, T. Asoh and Y. Takeuchi : 1986.

Role of the splanchnic nerves in endocrine and metabolic response to abdominal surgery

Br. J. Surg. 73 : 142-145.

33. Tsuji, H : 1985.

Clinical implications of physical fitness

Intern. J. Biometeorol. 29 (Supl 2) : 104-114.

34. Akiyoshi, T., T. Wada, Y. Nakamura and H. Tsuji : in press.

A simplified method for determination of tritiated thymidine incorporation into cells from tumor tissue in soft agar culture

Jpn. J. Surg.

短 速 報

1. 宮崎総一郎, 秋吉 毅, 有永信哉, 木場文男, 辻 秀男, 1982.

手術侵襲による killer 細胞産生能の抑制.

医学のあゆみ, 122 : 797-799.

総 説

1. 辻 秀男, 麻生 宰, 竹内義彦, 菊地哲茂, 1982.

臨床体力医学.

日本医事新報, 3025 : 43-48.

2. 辻 秀男, 麻生 宰, 白坂千秋, 竹内義彦, 1983.

手術ストレスの軽減.

外科, 45 : 810-814.

3. 秋吉 毅, 1984.

癌の免疫—担癌患者の免疫応答.

大分県医学会雑誌, 2 : 29-34.

4. 辻 秀男, 1984.

病気のひとの運動と栄養—肝臓病のひと。

臨床栄養, 65: 598-606.

5. 辻 秀男, 1984.

術前患者体力トレーニングと筋疲労.

日本温泉気候物理医学会誌, 48: 33-35.

6. 辻 秀男, 1986.

老年者の手術と心肺機能の評価.

老年医学, 24: 179-184.

7. 秋吉 毅, 木場文男, 辻 秀男, 1986.

癌患者所属リンパ節は抗腫瘍性に働いているか?

Oncologia, 16: 102-109.

学会発表

1. 秋吉 毅, 和田哲哉, 他, 1982.

乳癌組織細胞の Colony 形成に及ぼす制癌剤の影響に関する検討, 第82回日本外科学会総会.

2. 宮崎総一郎, 秋吉 毅, 他, 1982.

癌患者の術前後における非特異的および特異的細胞性免疫能の変動, 第82回日本外科学会総会.

3. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1982.

胃癌患者リンパ球の TCGF 産生および TCGF 培養リンパ球の機能に関する検討, 第82回日本外科学会総会.

4. 竹内義彦, 麻生 幸, 他, 1982.

ラットのショック抵抗性に及ぼす運動トレーニングの影響について, 第47回日本温泉気候物理医学会総会.

5. 白坂千秋, 辻 秀男, 他, 1982.

寒の地獄浴の体温調節ならびに代謝に及ぼす影響について—糖尿病患者への影響—, 第47回日本温泉気候物理医学会総会.

6. 白坂千秋, 辻 秀男, 他, 1982.

手術時異化反応における神経刺激の役割について, 第19回日本外科代謝栄養学会.

7. 麻生 幸, 辻 秀男, 他, 1982. 手術侵襲時のストレスホルモンの動態とその意義について, 第19回日本外科代謝栄養学会.

8. 竹内義彦, 白坂千秋, 他, 1982. 外傷ショック耐性に及ぼす安静と運動の影響, 第19回日本外科代謝栄養学会.

9. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1982.

MLC による培養胃癌細胞に対する killer 細胞の産生, 第41回日本癌学会総会.

10. 宮崎総一郎, 秋吉 毅, 他, 1982.

癌患者における術前後の killer 細胞産生能の変動, 第41回日本癌学会総会.

11. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1982.

アドリマイシン処理による killer 細胞産生能の増強, 第41回日本癌学会総会.

12. 秋吉 毅, 和田哲哉, 他, 1982.
癌性胸腹水細胞の Colony 形成に及ぼす制癌剤および加温の影響, 第41回日本癌学会総会.
13. 秋吉 毅, 有永信哉, 他, 1982.
進行胃癌に対する combination chemoimmunotherapy の成績, 第41回日本癌学会総会.
14. Akiyoshi, T., F. Koba, et al. : 1982.
Indirect macrophage migration inhibition response to 3M KC1 tumor extract in patients with gastric carcinoma. 13th International Cancer Congress.
15. Miyazaki, S., T. Akiyoshi, et al. : 1982.
Changes in cell-mediated immune response to autologous tumor extract after surgery in cancer patients. 13th International Cancer Congress.
16. Kawaguchi, M., T. Akiyoshi, et al. : 1982.
Sequential combination chemoimmunotherapy for gastric carcinoma. 13th International Cancer Congress.
17. 木場木男, 秋吉 毅, 他, 1982.
癌所属リンパ節の細胞性免疫能に関する 2, 3 の検討, 第20回日本癌治療学会総会.
18. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1982.
アドリマイシンによる killer 細胞産生能の増強, 第20回日本癌治療学会総会.
19. 安部良二, 辻 秀男, 他, 1982.
肝癌(原発性および転移性)に対する「2チャンネル方式」動注化学療法の試み, 第20回日本癌治療学会総会.
20. 秋吉 毅, 和田哲哉, 他, 1982.
腫瘍組織細胞の colony 形成に及ぼす制癌剤および加温の影響, 癌性胸腹水細胞について, 第20回日本癌治療学会総会.
21. 宮崎総一郎, 内田一郎, 他, 1983.
胆道結石症手術症例の予後調査成績, 第21回日本消化器病学会総会.
22. 秋吉 毅, 宮崎総一郎, 他, 1983.
MLC による killer 細胞の産生, 第83回日本外科学会総会.
23. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1983.
制癌剤の投与時期を考慮した免疫化学併用療法, 第4報, 第83回日本外科学会総会.
24. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1983.
胃癌所属リンパ節の killer 活性に関する検討.
25. 秋吉 毅, 木場文男, 他, 1983.
パネルディスプレイ, 摘脾, 胃癌患者脾細胞の killer 活性.
26. 安部良二, 辻 秀男, 他, 1983.
癌患者に対する 2チャンネル方式化学療法の試み, 第83回日本外科学会総会.
27. 麻生 宰, 辻 秀男, 他, 1983.
シンポジウム, 運動と肝機能, 肝硬変に対する運動の影響, 34周年記念日本体力医学シンポジウ

ム。

28. 竹内義彦, 麻生 幸, 他, 1983.
術前トレーニングの肺機能に及ぼす影響, 第48回日本温泉気候物理医学会総会.
29. 白坂千秋, 麻生 幸, 他, 1983.
外科術後患者の早期入浴について, 第48回日本温泉気候物理医学会総会.
30. 麻生 幸, 白坂千秋, 他, 1983.
術後内分泌代謝反応の誘発因子について, 第20回日本外科代謝栄養学会.
31. 白坂千秋, 辻 秀男, 他, 1983.
手術時異化反応における神経刺激の役割について (第2報), 第20回日本外科代謝栄養学会.
32. 和田哲哉, 秋吉 毅, 他, 1983.
乳癌組織細胞の colony 形成とそれに及ぼすアドリアマイシン及び加温の影響, 第42回日本癌学会総会.
33. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1983.
制癌剤 in vitro 処理による killer 細胞産生能の増強, 第42回日本癌学会総会.
34. 秋吉 毅, 木場文男, 他, 1983.
胃癌患者脾細胞の免疫能—killer 活性について, 第42回日本癌学会総会.
35. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1983.
胃癌所属リンパ節の killer 活性, 第42回日本癌学会総会.
36. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1983.
制癌剤の投与時期を考慮した能動免疫化学併用療法—Adriamycin 投与による試み, 第42回日本癌学会総会.
37. 秋吉 毅, 宮崎総一郎, 他, 1983.
MLC による killer 細胞の産生, 第42回日本癌学会総会.
38. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1983.
パネルディスカッション, 癌免疫療法の効果と反省, 制癌剤の投与時期を考慮した能動免疫化学併用療法, 第21回日本癌治療学会総会.
39. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1983.
胃癌所属リンパ節の NK 活性, 第21回日本癌治療学会総会.
40. 宮崎総一郎, 秋吉 毅, 他, 1983.
癌患者における術後の killer 細胞産生能の抑制, 第21回日本癌治療学会総会.
41. 安部良二, 辻 秀男, 他, 1983.
パネルディスカッション, 動注化学療法, 2チャンネル方式動注化学療法の試み, 第21回日本癌治療学会総会.
42. 竹内義彦, 白坂千秋, 他, 1983.
術前患者における運動による肺機能改善効果について, 第45回日本臨床外科医学会総会.
43. 竹内義彦, 白坂千秋, 他, 1984. 術後肺合併症予防法としての術前トレーニングの意義, 第84回日本外科学会総会.

44. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1984.
胃癌所属リンパ節の細胞性免疫能 TCGF (IL-2) 産生能と反応性, 第84回日本外科学会総会.
45. 秋吉 毅, 木場文男, 他, 1984.
胃癌患者リンパ球の killer 活性: 末梢血, 所属リンパ節, 脾のリンパ球における比較, 第84回日本外科学会総会.
46. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1984.
新しい能動免疫化学併用療法の試み, 第84回日本外科学会総会.
47. 内田一郎, 竹内義彦, 他, 1984.
寒冷刺激と運動との交叉適応, 第49回日本温泉気候物理医学会.
48. 白坂千秋, 竹内義彦, 他, 1984.
寒の地獄連浴による生体反応について, 第49回日本温泉気候物理医学会.
49. 竹内義彦, 1984.
シンポジウム, 内分泌医学の進歩と温泉の正常化作用, 第49回日本温泉気候物理医学会.
50. 辻 秀男, 1984.
シンポジウム, 疲労のメカニズムと対策, 低体力患者における運動トレーニングと疲労, 第49回日本温泉気候物理医学会.
51. 白坂千秋, 竹内義彦, 他, 1984.
尿中カテコラミン排泄量に及ぼす因子の検討, 第21回日本外科代謝栄養学会.
52. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1984.
ワークショップII, 再び胃全摘における摘脾の功罪, 第24回日本消化器外科学会総会.
53. 白坂千秋, 竹内義彦, 他, 1984.
上腹部手術時侵襲反応抑制の試み, 第24回日本消化器外科学会総会.
54. Tsuji, H. : 1984.
Clinical implications of physical fitness. 10th Intern. Congr. Biometology.
55. Tsuji, H. , T. Asoh, et al. : 1984.
Effect of splanchnic nerve blockade on endocrine-metabolic response to abdominal surgery. Intern. Trauma Meeting.
56. Tsuji, H., T. Asoh, et al. : 1984.
Epidural analgesia in upper abdominal surgery. Intern. Trauma Meeting.
57. 安部良二, 辻 秀男, 他, 1984.
肝腫瘍および癌性腹水に対する2チャンネル方式化学療法の試み, 第22回日本癌治療学会総会.
58. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1984.
胃癌所属リンパ節リンパ球NK活性の増強, 第22回日本癌治療学会総会.
59. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1984.
癌患者における術前後の免疫能の変動, 第22回日本癌治療学会総会.
60. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1984.
制癌剤 in vitro 処理による killer 細胞産生能の増強, 第43回日本癌学会総会.

61. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1984.
胃癌所属リンパ節リンパ球の IL-2 産生能と反応性, 第43回日本癌学会総会.
62. 安部良二, 秋吉 毅, 他, 1984.
2チャンネル方式動注化学療法における投与法の検討, 第43回日本癌学会総会.
63. 秋吉 毅, 和田哲哉, 他, 1984.
制癌剤感受性テストとしての tritiated thymidine assay におけるマイクロ法開発の試み, 第43回日本癌学会総会.
64. 竹内義彦, 内田一郎, 他, 1984.
走行トレーニングラットの外傷ストレス耐性, 第23回日本生気象学会.
65. 麻生 幸, 辻 秀男, 他, 1984.
間歇的冷水浴による生体変化について (第1報), 第23回日本生気象学会総会.
66. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1984.
ポスターシンポジウム, 癌手術に対する補助免疫化学療法, 胃癌に対する能動免疫化学併用療法, 第46回日本臨床外科医学会総会.
67. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1985.
術後の免疫能の抑制: IL-2 の関与について, 第85回日本外科学会総会.
68. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1985.
癌患者所属リンパ節の killer 細胞産生能, 第85回日本外科学会総会.
69. 安部良二, 辻 秀男, 他, 1985.
2チャンネル方式化学療法に関する基礎的及び臨床的検討, 第85回日本外科学会総会.
70. 内田一郎, 竹内義彦, 他, 1985.
老人入院患者の肺機能と運動トレーニングの効果について, 第50回日本温泉気候物理医学会総会.
71. 麻生 幸, 白坂千秋, 他, 1985.
自発運動トレーニングラットの外科的ストレス耐性について, 第50回日本温泉気候物理医学会総会.
72. 麻生 幸, 辻 秀男, 他, 1985.
術後窒素負平衡における神経刺激の役割, 第22回日本外科代謝栄養学会.
73. 内田一郎, 麻生 幸, 他, 1985.
Euglycemic insulin clamp technique による術後耐糖能の検討, 第22回日本外科代謝栄養学会.
74. 白坂千秋, 辻 秀男, 他, 1985.
プロスタグランディン・インヒビターによる術後窒素平衡改善効果, 第22回日本外科代謝栄養学会.
75. 木場文男, 秋吉 毅, 他, 1985.
シンポジウム, 消化器癌リンパ節応答とその郭清, 胃癌所属リンパ節の細胞性免疫能, 第26回日本消化器外科学会総会.
76. 白坂千秋, 麻生 幸, 他, 1985.
腹部手術における侵襲反応抑制の効果, 第47回日本臨床外科医学会総会.

77. 安部良二, 秋吉 毅, 他, 1985.
二経路化学療法の基礎的検討, PHA リンパ球幼若化反応を用いた cis-DDP に対する STS の中
和作用の検索, 第44回日本癌学会総会.
78. 秋吉 毅, 木場文男, 他, 1985.
胃癌患者脾細胞の activated killer 活性, 第44回日本癌学会総会.
79. 和田哲哉, 秋吉 毅, 他, 1985.
Simplified scintillation assay の試み, 第44回日本癌学会総会.
80. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1985.
Adriamycin による killer 細胞産生能の増強, 第44回日本癌学会総会.
81. 有永信哉, 秋吉 毅, 他, 1985.
Adriamycin を用いた能動免疫化学併用療法, 第23回日本癌治療学会総会.
82. 麻生 宰, 辻 秀男, 他, 1985.
間歇的冷水浴による生体変化について, 第24回日本生気象学会.